

# 第1回宗像市防災会議議事録

日 時:平成30年12月19日(水)13時30分～14時45分

場 所:宗像市役所103会議室

出席者:伊豆会長、渡辺委員、藤田委員、阿部委員、溜池委員、高山委員、笠木委員、大隈委員、長谷川委員、木村委員、三好委員、篠原委員、中野委員、瀧口委員、高宮委員、永島委員、吉武委員、勝連委員、芳野委員、北村委員、福澤委員、吉村委員、山中委員、上小澤委員、中村委員、柴田委員、竹野委員、石橋委員、牟田委員、伊賀委員、今村委員、石山委員、石松委員、中村委員、鍋山委員

欠席者:江上委員、久芳委員、河野委員、花田委員、大和委員

事務局:(地域安全課)田中課長、粕山係長、藤原、田中、松尾

## 【 会議内容 】

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長あいさつ

本会議は、災害対策基本法第42条に基づき、地域防災に関する基本的かつ総合的な方針を定めた「宗像市地域防災計画」について、毎年検討を加え、必要があると認めるときは、これを修正する場となっている。

この1年の世相を表す「今年の漢字」に災害の「災」の字が選ばれたように、2018年は西日本豪雨や大阪北部地震、台風21号、北海道地方の地震など、災害が相次いだ年となった。

7月の西日本豪雨では、本市でも道路冠水や土砂崩れが発生し、一部地域では避難指示(緊急)を発令する事態となった。

災害に対しては、いつでも発生しうるという心構えを持っておくこと、そしてそれぞれの地域の防災力の強化が重要であると考えている。

本日ご出席の皆様と共に様々な防災対策事業に取り組んでいるところであるが、「安心・安全なまちづくり」の実現に向けて、一層のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

4. 自己紹介 資料1

## 5. 協議事項

- ・地域防災計画の改訂について 資料2
- ・指定避難所・指定緊急避難場所について 資料3  
質疑・応答なし

## 6. 報告事項

- ・平成30年7月豪雨の対応について 資料4
- ・平成30年度防災対策事業 資料5  
質疑・応答なし

(質疑・応答)

石橋委員： 図上訓練で、連絡員を設置するとあったが、災害時には、職員だけで市内の状況を把握することは難しいと思うが、地域住民では、こういった立場の人が連絡員として配置されることになるか。

田中課長： 今回の図上訓練は、庁内の連絡体制、情報共有の確認を目的としており、地域に連絡員を配置するというのではない。地域からは今までも、電話等でたくさん連絡があっており、その情報が市の色々な課に複数寄せられているが、その情報をうまく整理することができなかつたため、庁内で連絡員を設置し、検証してみたい。

## 7. その他

(質疑・応答)

吉村委員： 医療的な要支援者について要望があっていると思うが、例えば人工呼吸器等を取り付けている人について、一度、一般の指定避難所へ行ってから、福祉避難所へ行くという流れになっているが、その時の要望について回答がない状況であるがいかがか。

田中課長： いまのところそういった対象者がどのくらいいるか把握できていないのが現状。委員のおっしゃるようあらかじめ行く先を決めておくことが望ましいが、現状は、相談があってから、受け入れ先の状況を確認し、案内をしている。  
今後そういった対象者を把握するところから始めていきたい。

吉村委員： そういった方々を避難させることが必要であると思うが、こういった部署の人が対応するのか、計画はあるか。

田中課長： 要支援者の方については、地域の方々のサポートをお願いしているところではあるが、在宅医療を受けられている方も含め、今後、個別計画を立てる必要があると考えている。

笠木委員： 7月豪雨の際は着任前であったため、警察本部の災害対策室に入っていたが、災害時一番大切になるのは、正しい情報を共有することだと考える。今回の豪雨の際も、宗像警察署から連絡員を派遣し、情報のやり取りを行っていたが、さきほど事務局からの説明もあったように、情報が輻輳していたようであった。災害時には110番の件数もかなり多くなり、同じ情報も複数入ってくる。時間あたりの雨量が40mmを超えてくると急に110番が増えるが、昼間帯と夜間帯では、人員体制にも差があるため、このあたりも検討していかなければならないと考えている。今後とも協力をお願いしたい。

## 8. 閉会